令和2年度

学校評価書（学年末）

愛南町立御荘中学校

愛南町立御荘中学校　学校評価公開シート　その1

令和2年度学年末（1月）実施

【評価基準】 A：目標を達成　B：8割程度達成　C：6割程度達成　D：C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値（期待される姿）	評定（比較）	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合
Ⅰ 個を大切にした生徒指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向けた教育活動が実践されている。	中間期	◇生徒・教職員の9割以上が肯定しているため、評定をAとした。しかし、昨年度と比較し、生徒の肯定的な評価が2%下がっている。また、いじめで経過観察中の事案と不登校が継続している生徒もいるため、教職員の見守りや相談体制、家庭や地域との連携の強化を図る必要がある。	生徒2-3	76	16	5	3	0	92	
						教職員3-1	57	38	5	0	0	95	
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆いじめ・不登校対応については、学級や部活動などのよりよい集団づくりに継続して取り組んでいく。また、困難な状況にある仲間に優しく声掛けができる生徒を育て、自分たちの身近な課題を解決できる集団の育成に努めていく。教職員と家庭の見守りや関係機関との連携を強化し、組織的できめ細かな対応に継続して取り組んでいく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報							
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係・信頼関係が育まれ、生徒は楽しく学校生活を送っている。	中間期	◇生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定しているため、評定をAとした。コロナ禍での体育祭や文化祭、スパルタスロンなどの学校行事の実施を通じて、人間関係や信頼関係が良好に保たれていると考えられる。また、日々の学習活動や部活動での人間関係も概ね良好であると考えられる。しかし、生徒の7%が否定的な評価であるため、教職員の指導や支援方法の見直しが必要である。	生徒1-1	74	19	5	2	0	93	
						保護者1-1	46	45	8	1	0	91	
						教職員3-2	33	62	5	0	0	95	
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆生徒会活動や学級活動、班活動など、今後も生徒主体の活動で、よりよい学校づくりに努める。また、学習活動や部活動においても、生徒の主体性を育て、生徒の満足度を上げられる活動にしていく。教職員は学校行事の振り返りなどを生かし、特に生徒相互の良好な人間関係が構築できるように努めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート							
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期	◇今年度は、新型コロナウイルス対策で例年通りの内容での開催とはいかなかったが、事後アンケートでは、8割後半以上、学校評価アンケートでも9割以上の生徒が充実感を感じているため、評価をAとした。文化祭やスパルタスロンでは、皆が楽しめる時間にするよう、執行部を中心に生徒の意見を取り入れ、出来る限り行事に反映した。生徒の5%が否定的な評価であるため、様々な意見を吸い上げることができるよう、さらに工夫を重ねる必要がある。	生徒1-10	69	26	3	2	0	94	
						保護者2-4	34	59	5	1	12	94	
						教職員4-1	48	52	0	0	0	100	
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆肯定の割合は高いが、生徒・保護者の中にはまだ5%前後が満足していない。行事後の反省や改善点をもとに、さらに生徒主体で活動できるよう、生徒の意見を取り入れる工夫を考えながら、来年度に向けて計画を立てていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート							

【学校運営協議会における意見・提案等】

○　生徒の主体性を尊重して日々充実した指導が展開されているので、その成果が見られる。このような取組を継続していくことが、不登校やいじめの防止につながっていくと考えられる。　○　コロナ禍で様々な制限があったにもかかわらず、生徒会役員の生徒を中心として体育祭や文化祭などの行事で3年生が活躍している姿があり、感心した。下級生にも受け継いでほしいと願っている。　○　学校が楽しくないと感じている3%の生徒について、いじめともつながっている場合もあるので、注意して見ていく必要がある。

愛南町立御荘中学校　学校評価公開シート　その2

令和2年度学年末（1月）実施

【評価基準】 A：目標を達成　B：8割程度達成　C：6割程度達成　D：C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値（期待される姿）	評定（比較）	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合
Ⅱ 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを目指した、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期	◇生徒・教職員ともに9割以上が肯定的な回答であった。人との距離を意識しながらの学習活動の中でも、各教科で課題設定を工夫し、生徒が関心を持って主体的に考え、協力して学ぶ活動を取り入れてきた。ペアやグループ活動に加え、ジグソー法や付箋紙などの思考を深めるツールを用いて、どの生徒も活躍できる授業を目指して実践してきた結果であると考える。	教職員2-1	25	65	10	0	0	90	
						生徒2-1	49	45	5	1	0	94	
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆今年度は、特に「対話的な学習」に重点を置いて授業改善に努めている。立場と根拠・理由を明確にして発表することには少しずつ慣れてきているが、それを「深い学び」にするためには、意見を練り合う場面や熟考する場面をより多く設定する必要がある。また、そのために必要な基礎学力の定着や向上も図らなければならない。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉							
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	研修や自己研鑽に主体的に取り組み、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、きめ細かな学習指導、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期	◇各教科でICT機器（特にタブレット）の活用に努めることで、生徒が興味を持ち、生徒にとって分かりやすい授業が展開されている。資料や図形等を大きな画面に映したり、それらが動いたりすることで、生徒の理解が深まる場面が多いと思う。基礎的・基本的な学習については、個別に再テストを行う等により学力の定着に努めている。	教職員1-2	33	57	10	0	0	90	
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆ICT機器の活用については、教師と生徒、生徒と生徒というように、双方向のやり取りが効果的にできるよう工夫が必要である。また、提出物の徹底を含め、生徒の学習への意欲を高める取り組みを学年や学校で取り組めるといいと思う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉							
	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期	◇肯定率が生徒は80%、保護者は75%であるため、B評定とした。この結果は昨年度とほぼ同じである。学習委員会による家庭学習時間調査は、定期テストへ向けての取り組みを振り返り、考えさせるのに効果的であったと考える。生徒と保護者の肯定率に差があることから、保護者はもっと学習してほしいと望んでいることが伺える。	生徒1-2	40	40	15	5	0	80	
						保護者1-5	28	47	21	5	0	75	
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 B	◆生徒間で、主体的に家庭学習の習慣に対する意識の差があると考えられる中、80%の生徒が肯定したのは、自主学習ノートや課題の出し方について考えてきた結果であると考えられる。また、委員会による、自主学習ノート優秀者の表彰や、家庭学習時間調査の実施は、個々の学習について考えさせる良い機会になったと考える。今後は効果的な学習について、学習内容の質や量についても考察していく必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査							

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○ 主体的な家庭学習の習慣については、今年度もB評価となっている。自主学習は、ただのテスト勉強という捉え方ではなく、自分で0から考える力を身に付けるために行うと考えると、あえて答えのない課題を出すこともできるのではないか。来年度から一人一台のタブレットを生徒が持つようになるので、課題の出し方にもさらに検討が必要である。 ○ 学力を伸ばすためには、時間を上手に生み出して、個別に対応した学習を行うことが効果的であると考える。また、努力しているにもかかわらず、成果の出ていない生徒に対して、いくつかの学習方法を提案して、改善をうながすような学習相談のような時間が取れるとよいのではないか。 ○ 教師の主体的な研修が行われており、各教科で積極的にICT機器の活用に努め、分かりやすい授業を目指すことができている。しかし、来年度から、タブレット（クロームブック）を使って、教師と生徒、生徒と生徒が双方向のやりとりができるようにしなくてはならないので、さらに研修を進めていく必要がある。

愛南町立御荘中学校　学校評価公開シート　その3

令和2年度学年末（1月）実施

【評価基準】 A：目標を達成　B：8割程度達成　C：6割程度達成　D：C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値（期待される姿）	評定（比較）	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	気持ちのよい挨拶 中学生らしい言動	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、中学生らしい言動がとれる生徒が育っている。	中間期	◇すべての評価項目で肯定率が8割を超えているため、評定をAとした。今年度は、中間期との比較はできないが、生徒・地域の評価が高いことが分かる。しかしながら、教職員・保護者は肯定率こそ8割を超えたが、評価3が多い。「伝わる挨拶」など、気持ちの良い挨拶が習慣となっているかが問われる。継続して「伝わる挨拶」とはどのようなものをいうのかを考え、実践させていきたい。そのために、教職員をはじめ、大人も手本となり挨拶をしていくことが必要である。	教職員3-3	14	71	14	0	0	86	
						生徒1-5	74	21	4	1	0	95	
						保護者1-2	29	56	11	3	0	86	
						地域1-1	27	68	5	0	8	95	
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆生徒会の挨拶運動などにより、生徒・地域の評価は高い。また、習慣化している生徒も多い。「あ…相手より、い…いつも、さ…先に、つ…伝えよう」など、挨拶が生み出す効果や、明るい地域づくりに挨拶で貢献しようとする生徒の育成に努めていきたい。委員会等、生徒会活動で引き続き、挨拶について考える機会を設けていくことも必要である。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒のあいさつ運動の状況							
	⑧	人権尊重・心の通い合い	心が通い合い、互いの人格や人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。コロナ禍の中、限られた中で例年以上に各行事での協力が見られたことや、年度当初や12月のスパルタスロンでの「幸せの黄色いジャージ」効果も考えられる。ただ、人権強調月間における校区別人権・同和教育懇談会が12月20日と、例年より遅くなり、保護者の？が増えた原因の一つであると考えられる。また、いじめ対策委員会の中で、学級の課題が未だにある状況なので、生徒の人権意識を高めるための一層の取組が求められる。	生徒1-9	53	31	11	5	0	84	
						保護者2-3	31	58	8	3	28	89	
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 A	◆学級や部活動などの集団の中で、弱い立場にある生徒への配慮が必要である。「ありがとうメッセージ」や「みじかい手紙」等の紹介を今後も継続して行い、今年度の「幸せの黄色いジャージ」のような、学校内だけでなく地域を巻き込んだ活動も続けていきたい。また、、校区別人権・同和教育懇談会の講演会への保護者の参加数を増やす方策を練り、啓発活動を充実させていきたい。さらに、学校アンケート等で見られた人間関係などの問題に、生徒指導担当者と協力して素早い対応を心掛けていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報							
	⑨	道徳教育の充実	道徳の時間の充実が図られ、対話のある学びを通して、優しい心や道徳的実践力が育てられている。	中間期	◇昨年度同様、生徒・保護者ともに肯定率が9割を超えているため、評定はAとした。また、評価2・1と回答した生徒も、同様にいる。教職員と比べると、生徒の4と評価した数が多い。数値での評価ではなく、文章での回答を求めることで、今後の取組につなげることができると考えられる。いずれにせよ、目指す生徒像を生徒・教職員が理解した上で、引き続き教育活動全体での道徳教育の充実が大切である。	教職員6-1	24	71	5	0	0	95	
						生徒2-5	70	26	2	2	0	96	
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆回答の方法を数値だけでなく、文章回答にすることで、どの部分に成長が感じられた、課題があるということが見えてくるように思われる。また、「対話のある学び」の実現のために道徳の時間の事前・事後の活動や、ワークシートの工夫も必要である。生徒も・教職員も目に見えた形の変化があると、評価したり、課題や改善策を見つけたりがしやすいと考えられる。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容							

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○　挨拶については、生徒会の挨拶運動など全体的には評価は高く、習慣化している生徒は多い。しかし、ごく一部ではあるができない子がいる。思春期であることや、時間帯にもよるのかもしれないが、元気に挨拶してほしい。　○　スパルタスロンでの幸せの「黄色いジャージ一運動」は、生徒や教職員、地域とともにモチベーションが上がり、感動した。このような活動を続けてほしい。　○『ありがとうメッセージ』については、中学生の時期に面と向かってお礼や感謝を伝えることが難しいことだと思うが、こういう活動を通して子供達の心がほっこりしたやさしさで満ちることを希望する。また、先生からも、目立たなくても黙々と活動をしたり、やさしかったりする子もたくさんいると思うので、ぜひメッセージを送ってあげてほしい。

愛南町立御荘中学校　学校評価公開シート　その4

令和2年度学年末（1月）実施

【評価基準】 A:目標を達成　B:8割程度達成　C:6割程度達成　D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値（期待される姿）	評定（比較）	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合 0 50 90
Ⅳ 健やかな体の育成と安全教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期	◇3年生が部活動を引退したこともあり、やや生徒の回答からはよい評価であるとは言い難い。しかし、保健体育科の中では、毎時間体力向上につながる運動を取り入れており、3年生の体力維持には生かされていると考える。1．2年生は運動部に所属している生徒も多く、各部活動での活動が体力向上へとつながっていると思われる。全体として目標値は達成しており、A評価とする。	教職員7-1	38	57	5	0	0	95	
						生徒1-4	60	27	9	4	0	87	
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆新体力テストを1つの指標として、体力アップがなされているか見ることができる。保健体育科の活動を継続させることや各部活動での取組を見直すことをしていく。体力と技術のバランスを取り、郡総体へとつなげられるようにする。その際には、オバーワークにならないようにすることも共通理解として持っておく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・保健体育の授業の様子 ・郡新人総体の結果							
	⑪	安全・安心な学校づくり	安全・防災教育の改善と充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	中間期	◇各学年による防災教育や防災小説により、生徒の評価が非常に高いといえる。教職員も9割を超える評価で、全体としてAとした。避難訓練に関しては、2回目から3回目への取組に良い変化も見られ、意識の高さをうかがわせた。地域との連携が難しい今の状況を考えると、現時点ではよくできている。	生徒2-6	83	15	2	0	0	98	
						教職員7-2	52	43	5	0	0	95	
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆3回目の避難訓練で挙げられたような「気候に対応できる」ことは一つの課題として手立てを講じていく。また、様々な状況を訓練時に作って行うことを今後継続していく。地震、火災と講師を招いて学習しているので、防犯に関しても今後進めていく。総合的な学習の時間の内容を精査して、今年度の取組を生かした来年度へつなげていくようにする。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・地域との連携の状況							
	⑫	基本的生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期	◇生徒の全体で8割を超えているのでAの評価であるが、確実に実践できている生徒は半数以下である。また、全く定着していない生徒も数名いることが現状である。保健室が実施している「心と体の健康チェック」の内容からも、テレビやスマホで多くの時間を使っている生徒がいることが明らかで、家庭生活を見直す必要がある。	生徒1-7	47	38	10	5	0	85	
			【目標値】 生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆「心と体の健康チェック」に関しては、公の資料ではないため個別の指導は難しい。そのため、機を捉えた全体指導の場が継続的に必要である。家庭の事情も生徒それぞれであるため、全体指導から個別指導へと進めていく。学担に任せてしまうことなく、部活動、教科担任などあらゆる変化に目を向けて、一人一人を見つめられるよう共通理解を図る。また、家庭の協力も得られるよう働きかける。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果 ・「ノーテレビ・ノーゲームの日」の結果							

【学校運営協議会における意見・提案等】 ○ 部活動に関しての意見が出ているが、生徒の怪我の増加とも関連しているように感じる。運動部活動において、ウォーミングアップの時間は取れていても、ストレッチなどのクールダウンの時間がしっかり確保されていないのではないか。できれば部活動の中で、どうしても時間がなければ各自が家庭でできるように効果的な体の“ケアの仕方”を生徒に伝える必要があるのではないか。　○ 防災学習においては、生徒からの“これをやってみたい”という発案をすくい取って実践していくことが効果的だと考える。準備すべき防災グッズや防災ポーチの中身を自分たちで考え、話し合う活動などもやっていくとよいのではないか。

愛南町立御荘中学校　学校評価公開シート　その5

令和2年度学年末（1月）実施

【評価基準】 A：目標を達成　B：8割程度達成　C：6割程度達成　D：C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値（期待される姿）	評定（比較）	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合 0 50 90
V 家庭や地域との連携による特色ある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期	◇教職員・地域すべてが目標値を大きく上回っているため、評定をAとした。今年はコロナウイルス感染予防の観点から学校生活の場では、体育祭や文化祭等の各行事や、総合的な学習の時間等において、積極的に地域の「人」とのつながりをいかすことができなかったが、生徒につながりを意識させながら取り組んできた。特に、ジョブチャレや地域に出掛けてのボランティア活動では、数少ない機会を生かして、直接地域の方と接する良い機会となった。	教職員4-2	29	62	10	0	0	90	
						地域2-2	41	57	2	0	23	97	
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆3学期には、1年生の総合的な学習の時間で「地域学習」を中心に行う予定である。生徒が受け身の学習にならないよう、事前指導をしっかり行い意識付けをして、生徒から積極的な発信や交流ができるような取組を実践していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等							
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期	◇保護者、教職員ともに肯定評価が8割を超えたため、A評定とした。今年度も校内支援体制をつくり、学年部会や職員会議等で支援を要する生徒について共通理解を図った。次に、個別の教育支援計画や指導計画の作成に取り組み、実践、評価を行った。また、関係機関とも連携をとり、情報交換や支援会議を行い、それをもとに障がいのある生徒に合理的配慮を提供し、支援を行うことができた。	保護者2-3	31	58	8	3	28	89	
						教職員5-1	38	62	0	0	0	100	
			【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆支援会議を行い、保護者の心情を配慮し、合理的配慮を提供したが、十分ではない。今後も必要に応じて、関係機関と連携した支援会議を実施していく必要がある。個別の教育支援計画や指導計画の活用があまりできていない。特別支援教育コーディネーターが中心となり、職員会議や校内研修で、職員に共通理解をし・活用の推進をしていくことが大切である。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉							
	⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期	◇回答の8割以上が肯定的であること、学校・学年等の各種たよりが定期的に発行されており、ホームページの更新もほぼ毎日行われていることから、評定をAとした。各種たよりやホームページにより、行事だけではなく授業時間などの各学年の取組をはじめ、生徒会活動や部活動など、多くの教育活動の様子をその都度配信することができ、幅広く情報発信することができた。	保護者3-3	38	52	9	1	2	90	
						地域2-3	54	46	0	0	4	100	
			【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆学校運営協議会で提案された、学校だよりを地域の回覧板で回したり、公民館に掲示したりする取組の効果も出ている。また、生徒が確実に保護者に届けるために、進路説明会で「学年だよりに進路情報を掲載しているので必ず目を通してほしい」と伝えたり、生徒に「プリント類を手渡しているか？」と頻繁に声を掛けたりしたことも効果があった。また、学年通信では、同じ生徒の話題や写真が出ないようにし、たくさんの生徒が登場するように配慮した。今後も様々な啓発を心掛けて学校・家庭・地域の連携を深めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉							

【学校運営協議会における意見・提案等】

○ 「地域学習」の前に意識付けを行っていることはすばらしい。　○ 「地域とつながる教育」や「特別支援教育の充実」に関する質問に対して、地域や保護者の20%程度が分からないと回答していることが気になる。学校側は、一定の取組を行っているのに取組の内容が十分に伝わっていないようなので、外部へのアナウンスや情報提供の仕方などを検討する必要がある。　○ 学校だよりの配付（拡大版の公民館掲示、回覧板）やホームページの更新は今後も続けてほしい。